

<<ジェネリック医薬品事業への挑戦>>

世界に類のないスピードで高齢化が進展する中で、高齢者医療費に対する医療費抑制策の一環として、2002年、国がはじめてジェネリック医薬品の処方を推奨するためのインセンティブを与えました。

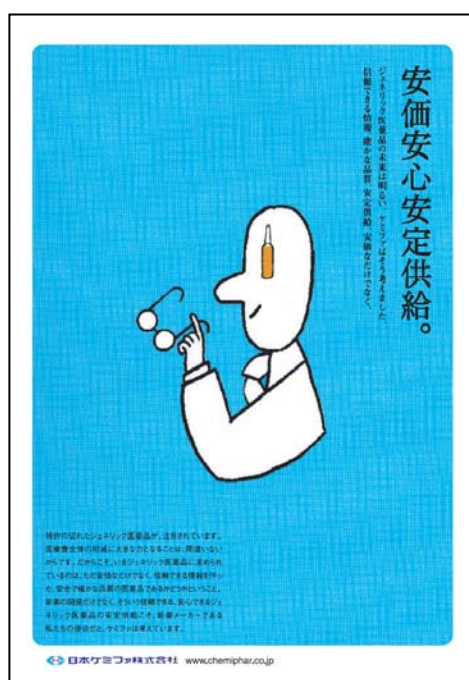
日本ケミファは、国がジェネリック医薬品の使用促進を図った2年前の2000年から、すでに将来のジェネリック医薬品市場の拡大を展望して、ジェネリック医薬品の自社開発、自社販売を事業の柱の一つとすることを重要な経営戦略としてとりあげ、推進してまいりました。

「供給戦略」面では品揃えの強化と将来の低価格戦略を視野に、2002年に世界的なジェネリック医薬品メーカーであるランバクシー社（インド）と子会社の日本薬品工業株式会社を通じ包括的な業務提携を図り、グローバルな視野に立った新たな供給ビジネスモデルの構築に取り組みました。

また「流通戦略」面では将来の代替調剤を視野に、調剤薬局薬剤師のジェネリック医薬品使用促進に向けた役割の重要性が増してくることを想定して、2004年には大手チェーン調剤である日本調剤との資本提携を含む包括的な業務提携を結び、調剤薬局薬剤師との信頼構築を目指した新たなビジネスモデルの構築に取り組むなど、ジェネリック医薬品事業拡大に向けた様々な戦略を推進してまいりました。

いまやジェネリック医薬品の使用促進は国の政策として強力に推進されており、その結果、ジェネリック医薬品市場は大きく成長しようとしています。

こうした背景をもとに、日本ケミファは患者さんや医療関係者から信頼されるジェネリック医薬品の提供を目指して、新薬メーカーのノウハウを生かした医薬品情報の提供や安定供給を前提に、高品質で安価なジェネリック医薬品の事業展開にも積極的に取り組んでおります。



ジェネリック医薬品の普及広告